

知多半島周辺におけるウミガメ類産卵状況及び死亡漂着情報

2014年の知多半島周辺におけるアカウミガメの産卵は8例でした。これは当園が1981年に調査を開始して以降、3番目に多い記録となりました(図-1)。この理由の1つに、同一個体の複数回産卵と思われる発見があつたことが挙げられます。



〔図-1〕 産卵地点



〔写真-1〕 産卵個体(篠島)

8例の産卵のうち半数は、南知多町篠島の前浜での4例でした。このうち1例目から3例目は島民の方が上陸現場を発見しており、写真から確認できる身体的特徴から同一個体であることが考えられました(写真-1)。産卵が高確率で発見されたり、毎週のように清掃活動が行われていることから、島全体でのウミガメに対する高い関心が伺えます。



〔写真-2〕 上陸・産卵跡(大池海岸)

美浜町布土の大池海岸では、当園が調査を開始して以降初めて産卵が確認されました(写真-2)。知多半島の三河湾側は伊勢湾側に比べて産卵頭数が少なく、これまでに当園が確認した記録では南知多町の2例のみでしたが、美浜町では初めての記録となりました。大池海岸は砂浜の奥行きが狭く、卵の流失防止のために大井鳶ヶ崎海岸へ移植しましたが、多くの仔ガメが無事に海へ旅立っていました。



〔図-2〕 死亡漂着発見場所

また残念ながら死亡漂着は4例あり、種類はアカウミガメが2例、アオウミガメが1例、アカウミガメとタイマイの交雑個体と思われる個体が1例でいずれも死因は不明でした(図-2、写真-3~6)。知多半島近海ではアカウミガメだけでなく、索餌回遊のために訪れるアオウミガメをはじめ、タイマイ、ヒメウミガメ、オサガメといった種が見つかることがあります。これらの種が死亡漂着した場合についてもアカウミガメ同様に解剖を行い、死因などを推測します。また、ごく稀に交雑個体が見つかることがあります。交雑個体については形態的特徴や食性など未解明な部分が多く、死亡漂着個体の情報は貴重なデータとなります。



〔写真-3〕 野間海岸



〔写真-4〕 一色町衣崎港東



〔写真-5〕 小野浦海岸



〔写真-6〕 山海海水浴場

産卵や死体漂着の発見は一般の方々による情報がほとんどです。多いのは散歩中の方やサーファーの方などからの情報ですが、今年は釣りをしている方からも情報がありました。当園としても皆様に幅広くウミガメについて知っていただくために、今後も呼び掛けに努めて参ります。継続的に記録を残していくためには、皆さんからもいただく情報がとても重要です。産卵はもとより、足跡を見つけたり、死体が打ちあがっていた場合でも是非、南知多ビーチランドまでご連絡ください。ただし、申し訳ありませんがお寄せいただく情報は、知多半島周辺に限らせていただきます。(伊藤幸太郎)